

越後支部80周年記念事業山岳古道 大沢峠(300m)



- 日 時 令和5年10月22日(日)
- 参加者 CL遠山 實、小田捷寿、遠藤俊一、遠藤家之進正和(記録)、多田政雄
滝沢信子、田邊信行、佐藤 博 8名
- 地 図 国土地理院 1/25000 蒲萄

出羽街道は、村上市から山形県鶴岡市の鶴ヶ城城下に至る道である。

出羽街道は、浜通り(国道345号線)と山通り(国道7号線)がある。峠として名が残っているのは、長坂峠、葡萄峠、大沢峠、雨坂峠、カリヤス峠、小俣峠、堀切峠を総称しての峠道を出羽街道という。

峠道は車道化し、案内等で往時を知るのみである。芭蕉の歩いた道として大沢峠道だけが面影を残し、大沢集落で峠道保全活動を行っている。



大沢集落で踏査メンバー



奥の細道 峠道入口

前日の雨天から、集合地の国道7号線大須戸ステーションに着くと青空が広がる絶好の登山日和となる。下山地点の明神岩に車をデポし、登山口の大沢集落に向かう。

大沢集落は、大毎トンネル手前でミズガミ沢に沿って進み、行き詰まったところと有りに、最奥にある山村としたたずまいを感じさせる集落である。

峠道入口には松尾芭蕉が歩いたことを知らしめるため、「奥の細道」の標柱が設置されている。本間氏宅前を過ぎ、沢沿いの林道を進むと分岐の標識がある。



本間氏住宅から峠道へ



分岐標識



出羽街道奥の細道

峠道は「出羽街道奥の細道」の標柱を左に見て、杉林に向かって伸びている。すぐに「芭蕉が歩いた大沢峠石畳古道」の標柱が有り、新しい石版が敷かれている階段になる。来訪者に歩き易いようにと道を整備した活動が報道されたが、古道に対する地域の意気



芭蕉が歩いた大沢峠石畳古道

込みを感じる。

道は緩やかに登り、杉林も陽も射し明るい。急登もなく敷かれた石段の脇にはミズナが繁り、花芽が玉となって実っている。ミズナには赤ミズ、青ミズが有るが、この時期は青ミズが良く、酒の肴には湯でて炒めて食するのが良いなどと話しながら進む。



ミズナが繁る石畳み



笠松跡



スギヒラタケと標識

道は沢筋の沿うように緩やかに登り、陽当りの良い所に「笠松」の標識がある。最近まだあったという。傘の形をして街道の目印になっていたと記されているが、周りが杉で陽当たりも悪く、それとも目立つ松であったばかりにマツクイムシに害されたのであろうか。雑木林の街道だと目立ったであろうに。

沢筋を右手に回り込むと、スギヒラタケがあり、傍らに「芭蕉の歩いた出羽街道」の標識。広い道を左に回り込むと低い木製の椅子のある平坦地に出る。



大沢峠

ここが大沢峠だという。標識もない。間隔の広い杉林のお陰で明るい、展望は無い。椅子はあるが座って休む気分になれないのが残念。大沢集落から30分足らずである。



石畳古道標識とメンバー

少し下ったところに標柱があるので、マルクラ沢に沿って下ると石畳となり、陽が射す傍らに「芭蕉が歩いた大沢峠石畳古道」の標柱がある。

今回の調査行程は約2時間コースなので、休むことなく下る。全行程杉林の中で、展望は無いので休まないで、石畳や伝説の個所を確認するときに呼吸を整えられるので十分歩ける古道である。



石畳古道

陽が射さないで石畳は苔むし、古道の雰囲気は良いが、滑り易いので注意が必要。

切通しを抜けたところに清水が湧いており、マルクラ沢が崩れているところに、昔「めくら」を谷に落としたという伝説の「座頭落とし」の標柱がある。盲目の旅人には難所の峠越えだったのだろう。



標識



切通し



座頭落とし

石畳は随所にあり、マルクラ沢を超え、古小屋沢の支流に沿って下ることわずかで林道に出る。明神岩側の入口である。ヒルに注意の看板が有り、ここまで来たのかという思

いであるが、幸いにも今回は誰も吸われなかった。



石畳



矢葺明神標識



明神側大沢峠入口



明神林道と大沢峠入口



マタタビ

林道に出ると明るく、久々の陽ざしが暖かい。

傍らにマタタビが有り、ほうばると甘酸っぱいさが口に広がる。



明神岩

林道を下ると左手に岸壁が見えてくる。近時パワースポットと呼ばれている100mはある岸壁の明神岩である。傍らに漆山神社がある。見上げると木々が生い茂り山頂部は良く見えない。



漆山神社

別名「矢葺神社」とも言われ、源義家が北狄征討の役の帰り、当社を詣で、余剰の矢で屋根を葺いたと伝えられている。また、安産の神として信仰が深く、子宝を肖りたいと参拝の折、小さなトチの実を持ち帰り、めでたく授かると大きな実を持ってお礼に来たとのこと。そのせいか神社の脇に「トチ」の大木がある。太いフジの蔓も岸壁に絡まり天井に伸びている。



トチの大木と明神岩

神社は、山北地域漆液産地の中心の神として崇められ、11月13日の「うるしの日」には、漆を使う村上木彫り堆朱職人は参拝を欠かさないという。

鳥居をくぐると狛犬が有るが、相当の年収をえているのだろう、欠けて半分ほどになっている。大沢峠を越し一息ついて、これから蒲萄峠を安全に越せるよう参拝したのではないか。



出羽街道ルートマップ



ニジマス養魚場

近くにニジマス養魚場があり、清らかな明神川の水を使って養殖しているのだろうから、味は良いのだろう。